

藝備孝義傳三編

沼田安藝

卷五

まゝ兄あんに本家を重んじうる事もある存せし時の
やぐんからいける。まゝ年ぐの真中のいつも他人
よりいそやうたてまつりぬかれし事の事々々感
じてその状をさうしあけうけきこると同じ年
歩るめあうて長流は米三俵をうけし孫と吉長八も
おのゝ鳥目をとる。

○戸坂村きよ

さよふ。幼少うて父忠八よりあれ母と妹とあり。さよ
十八の歳より。城下より出て。九条むうりな公よりある所の

給銀と一鉢も又よつけど、ふ母ふおくりける。廿七まで、
 鄰村の某は嫁せしは、後妹もすく代り適母の家に
 あつて、影いゝ傾きつゝは、痼積の宿疾にちやと
 けり。誰一人介保をせざるも、そのもあければ、いづよ
 深く、こ事を憂ひて、日夜心も安らうとて、遂は夫にむし
 移ん、こゝろこゝろつて、いとよとをこゝに。夫も、か事
 心を憐れ、ゆるし、て家な、ゆるし、むさよ、むづなる
 田畑を、ゆる、或は人な、雇はるゝとて、母を、あひくるが
 母はいよく、老衰し、又に疾さ、あれば、さき、の、これと

といひ、くれど、きよ、貧窮の、らう、す、心と、け、て
 い、あ、と、お、か、つて、その、意、た、ら、で、代、よ、と、れ
 ゆきて、母が、食事の、以、て、か、ん、づ、帰、り、て、食、もの、を
 そ、の、母、は、さ、め、を、さ、う、て、ま、て、行、ぬ、され、と、雇、る
 か、と、な、對、して、心、あ、ら、う、ぢ、や、お、ひ、け、ん、後、は、家、は、れ、こ
 あ、つて、昼、夜、暑、寒、の、か、か、く、糸、ひ、き、機、織、る、こ、と、飯
 け、め、本、稼、を、城、下、は、お、ゆ、き、て、賣、代、さ、し、こ、と、を、め、て
 生、計、を、こ、と、城、下、ま、で、ハ、一、五、む、う、りの、跡、ある、と、は、け、ひ、よ
 授、を、こ、め、て、出、母、は、輕、飯、す、あ、ら、う、さ、う、こ、と、ハ、必、か、つ、り



あつくる其夜とよ母が好めるおを取くらばと
いふことあり母病ころよき頃いられもふいふと
ふふさよいつもいざとてよもやもの話あといつ
ちもくふふひきけるが老人のひきおふを交て後
あせ一本縁ハ價ようらぎやとてその事をバ母はとら
しめぞ今日もよく人の買て利をうるにと多あり
なごいついてよろこびせけるます種まさ稲刈るこも
必母よといふあのみこ言とてたからぬこあ
母が言のまゝよろこべば母人へにむらひてさよ

はくの厚きさめを語く。はく女かくまで。愛はく。これより。悦泣は泣く。も。きよめて。さく。勿体なき。も。さう。兄弟。母一人の。艱苦。して。かく。長。う。なれ。い。う。な。と。事。ある。も。あ。さ。たる。こ。う。た。母。餘命。の。あら。う。て。ば。ある。日。の。短。から。ん。と。歎。い。け。れ。と。涙。を。流。し。な。れ。ば。さ。く。人。も。皆。あ。り。れ。と。さ。わ。し。て。感。い。り。ぬ。あ。る。も。の。あ。れ。は。貴。し。て。米。五。た。う。を。の。ふ。と。花。兄。弟。ら。と。同。一。年。あり。こ。う。ハ。國。老。上田。主水。の。采。地。は。係。も。な。れ。う。さ。さ。

かの家よりも米銭を與ふる。

按ずる。よ。女子。ハ。人。に。嫁。して。ハ。夫。は。従。ハ。夫。を。天。と。ま。さ。道。あ。れ。ば。夫。は。難。婚。を。も。て。帰。養。し。ハ。夫。婦。の。道。は。於。て。過。り。と。い。ふ。べ。し。され。と。觀。過。知。仁。と。ハ。聖。語。も。あ。り。て。さ。う。よ。過。も。孝。心。の。厚。き。う。り。出。た。る。あ。れ。ば。その。心。い。と。あ。れ。あ。さ。と。も。て。官。より。ハ。その。過。を。畧。し。て。專。ら。の。孝。と。の。も。さ。せ。ら。れ。一。賤。し。き。と。の。ハ。備。る。こ。と。を。求。め。難。い。あり。見。る。と。の。これ。道。理。を。辨。か。へ。き。こ。と。ハ。丁。也。高田。郡。向。山。村。き。こ。も。これ。ハ。同。ハ。

○畑賀村平兵衛妻也